

No. 10 : ベトナム食品見本市～先進事例、開拓のヒントに～（令和6年1月30日）

2023年11月22日から25日にかけて、ベトナム最大の経済都市ホーチミン市で「Vietnam Foodexpo 2023」が開催された。今後のベトナム食品市場の販路開拓に向けた情報収集の一環として、同見本市を視察してきたため、その様子についてレポートしたい。

同見本市の出展者数は400程度、大まかな構成としてはベトナムの現地企業や自治体での出展者が6割、海外出展者が4割といったところである。海外出展者の中では韓国と中国の数が多く、両国で海外出展者のおよそ半分を占めた一方、日本の出展者数は10程度という状況であった。

香港や台湾で開催される同様のイベントと比べると、日本の出展者数はまだまだ少ないという印象であるが、出品物については、牛肉、水産物、日本酒、漬物、加工食品等、多種多様な商品が見受けられた。

日本の出展者から話を聞いて特に印象に残ったのは、愛知県の食品事業者を中心に形成する「AICHI FOOD EXPORT WORKSHOP JAPAN」というコンソーシアムの事例である。

これは、直接貿易が可能な会員企業がとりまとめ役となる地域商社を立ち上げ、外部商社が扱わなかった会員企業が持つ加工食品を輸出できる環境を実現するという活動であり、2023年度はモデル事業としてベトナムへの販路開拓を目指し出展したとのことだ。

現地では、とりまとめ役企業との間で取引のある現地インポーター（輸入業者）が、他の会員企業の商品についても輸入手続きや売り込みを行っており、とりまとめ役企業の担当者は「ベトナムは輸入手続きが非常に面倒だが、インポーターが全てやってくれるので助かる。ベトナムへの輸出を考えるなら、まずは有力なインポーターを探すのが良い」と話していた。

ベトナムは、日本産食品の輸出先として、今後ますます重要な位置を占めることが予想され、本県の中にも、ベトナムへの食品輸出を検討する事業者があると考えられる。そうした中、現地の見本市の状況や愛知県の食品事業者の事例のような先進的な取組を調査しフィードバックすることで、海外販路開拓の支援施策検討の一助となればと思う。



【「Vietnam Foodexpo 2023」における日本の出展者のブース=11月22日、ホーチミン】

（県香港事務所長 卯木啓之）